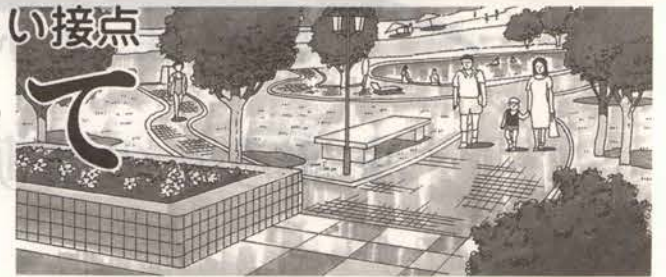




コースタル・コミュニティー・ゾーン (C・C・Z) は、人と海の新しい接点

ふれあいの海辺をめざして

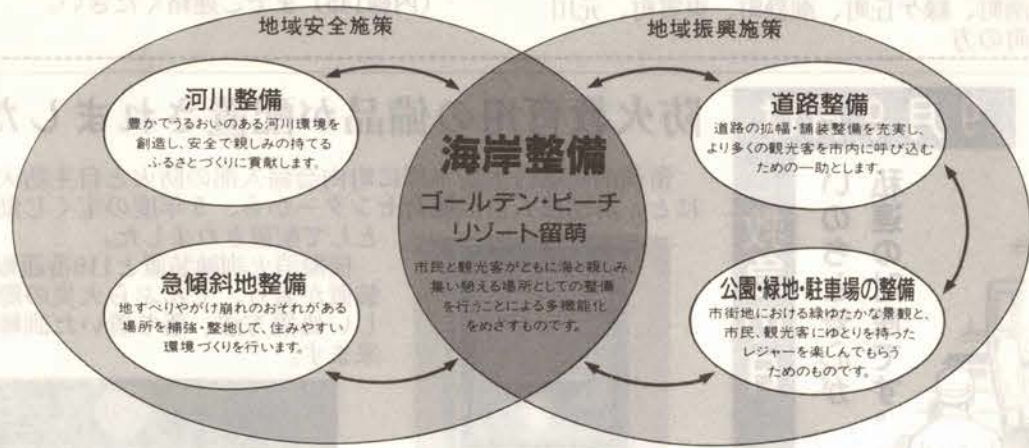
黄金色に輝く海辺の総合保養地をめざして



内陸部とリンクした都市公園の創造「ゴールデンビーチ・リゾート留萌」

留萌海岸は、旭川・深川・滝川方面の海を持たない(人口約70万人を擁する)内陸地域の人々が気軽に楽しめる海浜レクリエーション地であり、また、暑寒別天売焼尻国定公園、利尻礼文サロベツ国立公園を結ぶ北海道西海岸北部の海浜広域観光ルート「日本海オロロンライン」の拠点としても重要な役割を果たしています。

C・C・Z(ふれあいの海辺)事業にあたっては、本市の自然特性として有名な「黄金に輝く波・太陽・砂浜」を象徴とした特色ある「ゴールデン・ビーチ・リゾート留萌」をキャッチフレーズに、良好な海浜空間の確保、さまざまな観光・レクリエーション活動が楽しめる都市公園を整備し、更に道路整備や施設の充実を図っていきます。



留萌市のC・C・Zのバックボーン。北海道の特性と観光立県宣言

今、北海道は豊かな国土資源を活用して、国民の健康や文化教育の場を提供するなど国の長期的な発展への貢献が求められています。すなわち、国民生活における観光レクリエーション、余暇活動の意義が重要視されているのです。

この様な状況の中で本市は特徴的な海岸の美しさを中心とした都市型観光圏を形成し従来の夏期45日観光から半年観光の実現を目指そうとするものです。

12.3%	春秋	11.0%
57.0%	夏冬	19.7%

1988年季節別観光客入込み数

道北観光圏: 511万人

道南観光圏: 1,052万人



1988年度観光客入込み総数

日帰りレクリエーション誘致で海浜リゾートはさらに活性化。

本市を含む暑寒別天売焼尻国定公園は臨海型観光レクリエーション基地として、更に札幌及び道央地域から稚内にかけてのオロロンラインの中継地として、観光需要は増大していくものと期待されます。しかしこれからの観光需要にとって留萌地域は日帰り圏に属し、単なる通過型の観光地としないためには、各市町村各々でなく、地域一体となって広域観光圏を形成することが重要となります。

留萌市はその中核都市として都市型観光を目指し、宿泊施設の充実、ショッピング・グルメ街の近代化を図り、更に港の有効利用のため快速遊覧船、サンセットクルーズ、レジャーボート、ヨットハーバ等のマリナーの整備により、海洋レジャー型の港湾利用も必要となっています。

充実する幹線ネットワークが留萌C・C・Zの発展を加速する。

留萌市は、管内沿岸の交通結节点として重要な位置にあります。国道231号、国道232号、国道233号、JR留萌本線等により稚内～留萌～札幌、旭川～深川～留萌が連結され、更に北海道縦貫自動車道に連絡する深川・留萌自動車専用道路の建設計画が予定され、留萌港を核とする背後地旭川市等内陸地域との人・物の交流が一段と活発化することが予想されます。



留萌市の日帰り誘致圏

市町村	人口(人)	市町村	人口(人)
留萌市	32,414	東川町	7,281
増毛町	7,329	和寒町	5,613
小平町	5,313	剣淵町	4,748
苫前町	5,151	士別市	26,099
羽幌町	11,060	深川市	30,179
初山別村	2,075	妹背牛町	5,074
遠別町	4,408	秩父別町	3,746
旭川市	361,345	雨竜町	3,944
鷹巣町	7,190	北竜町	3,049
東神楽町	6,090	沼田町	5,217
当麻町	8,464	幌加内町	2,669
比布町	4,981		
合計			553,439

日帰り誘致圏の人口(1991年5月現在)

広がる職種、求められる「人」雇用機会も大きく広がるC・C・Z。

交通網や施設整備などによる物流の活性化は、地場産業として商業活動をはじめ、農業、水産業、食品加工業、更には新たな観光産業の創出など地域経済の活性化に結びつき、地元企業の充実や、企業誘致の受け皿となる等、若年労働力の流出防止や中高年齢者の雇用機会の拡大に大きく貢献するものと考えられ、特にこれからの休暇制度の充実に伴う余暇利用施設の需要が大きく期待されます。